

## 令和3年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立上河内中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和3年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

### 【調査の概要】

#### 1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

#### 2 調査期日

令和3年5月27日(木)

#### 3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 児童質問紙)

中学校 第3学年(国語, 数学, 生徒質問紙)

#### 4 本校の参加状況

① 国語 73人

② 数学 73人

#### 5 留意事項

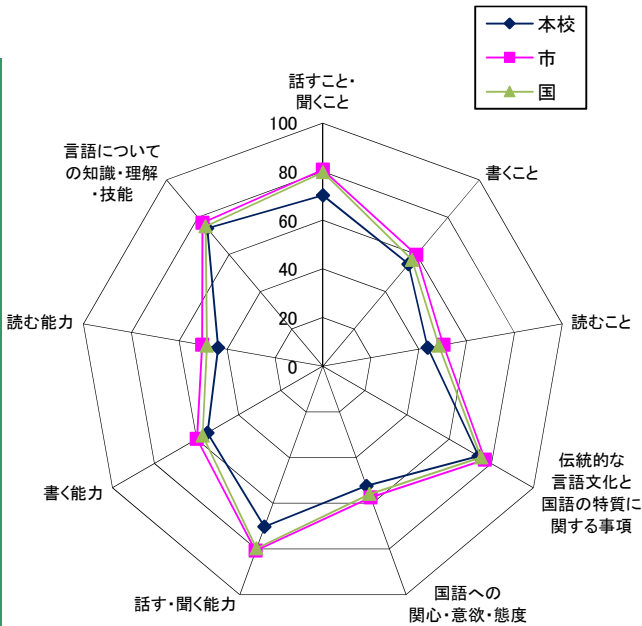
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学の2教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、児童が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立上河内中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

| 分類  | 区分                   | 本年度  |      |      |
|-----|----------------------|------|------|------|
|     |                      | 本校   | 市    | 国    |
| 領域等 | 話すこと・聞くこと            | 70.3 | 80.8 | 79.8 |
|     | 書くこと                 | 54.8 | 59.8 | 57.1 |
|     | 読むこと                 | 43.8 | 50.4 | 48.5 |
|     | 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | 74.0 | 77.0 | 75.1 |
| 観点  | 国語への関心・意欲・態度         | 52.4 | 57.5 | 56.0 |
|     | 話す・聞く能力              | 70.3 | 80.8 | 79.8 |
|     | 書く能力                 | 54.8 | 59.8 | 57.1 |
|     | 読む能力                 | 43.8 | 50.4 | 48.5 |
|     | 言語についての知識・理解・技能      | 74.0 | 77.0 | 75.1 |



★指導の工夫と改善

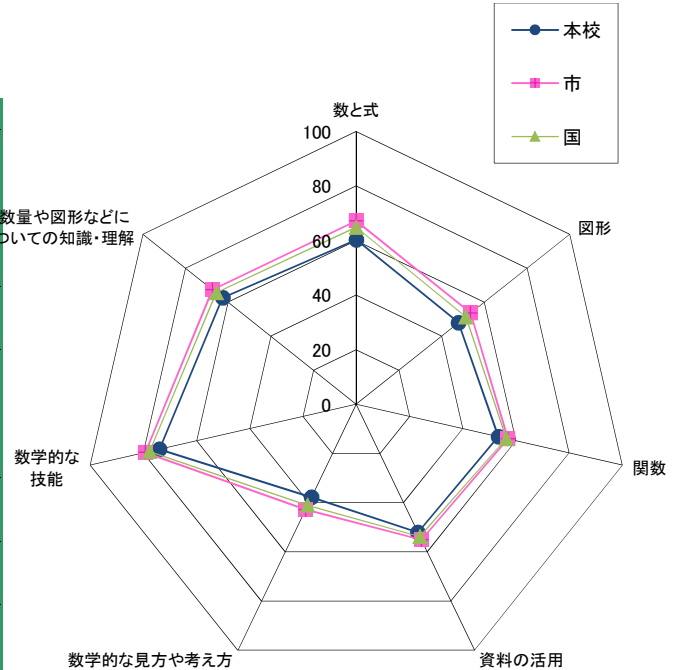
| 分類・区分                | 本年度の状況                                                                                                                                         | 今後の指導の重点                                                                                                                   |
|----------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 話すこと・聞くこと            | ○問題に対する無回答の割合は、県や全国の平均よりも低かった。<br>●話し合いの話題や方向を捉える問題や質問の意図を捉える問題の正答率は、県や全国の平均を約10ポイント下回っていた。                                                    | ○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの<br>・普段の授業において、先生や生徒の話をしっかりと聞く指導を継続することで、話を聞くことの大切さを学ばせる。また、聞き取りテストを実施することで、文章の大切な部分を押さえることを学習させる。 |
| 書くこと                 | ○書いた文章を互いに読み合い、文章の構成の工夫を考える問題や、文脈の中における語句の意味を理解する問題の正答率は約70%で、全国の平均とほぼ同じであった。<br>●書いた文を読み返し、語句や文の使い方、段落相互の関係に注意して書く問題の正答率は、県や全国の平均を約6ポイント下回った。 | ・普段の授業において、自分が書いた文章を生徒同士で読みあう時間を増やしていくことで書く力を伸ばしていく。また、その際にクロームブックのドキュメント機能を活用することで文章をその場で考えて校正する力をつけさせる。                  |
| 読むこと                 | ○場面の展開、登場人物の心情や行動に注意して読み、内容を理解する問題の正答率は約55%で、全国の正答率とほぼ同じであった。<br>●文章に表れているものの見方や考え方を捉え、自分の考えをもつ問題の正答率は、県や全国の平均を下回った。                           | ・小説の授業においては、登場人物の気持ちをしっかりと考えさせる場面を多く作り、生徒に登場人物の気持ちや筆者の思いを考えさせる。また、説明文の授業においては、接続語の働きや、指示語の働きを学ぶことで文章の要約や要旨をまとめさせる。         |
| 伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項 | ○文脈に即して漢字を正しく読む問題の正答率は90%であり、県や全国の平均を上回った。<br>●相手や場に応じて敬語を適切に使う問題の正答率は、県の平均を約8ポイント下回った。                                                        | ・漢字の読み書きは、授業で教えるとともに、普段の家庭学習でも、身に付けさせる。また、敬語については、授業で使い分けを説明するだけでなく、日常会話でも目上の人に対して自然に使えるようにする。                             |

宇都宮市立上河内中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国, 市と本校の状況

【数学】

| 分類 | 区分                | 本年度  |      |      |
|----|-------------------|------|------|------|
|    |                   | 本校   | 市    | 国    |
| 領域 | 数と式               | 60.3 | 67.2 | 64.9 |
|    | 図形                | 47.9 | 53.6 | 51.4 |
|    | 関数                | 53.4 | 57.0 | 56.4 |
|    | 資料の活用             | 52.1 | 55.1 | 53.8 |
| 観点 | 数学への関心・意欲・態度      |      |      |      |
|    | 数学的な見方や考え方        | 37.8 | 42.8 | 41.1 |
|    | 数学的な技能            | 74.0 | 79.3 | 77.7 |
|    | 数量や図形などについての知識・理解 | 62.6 | 67.4 | 65.6 |



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

| 分類・区分 | 本年度の状況                                                                                                                                                                                                     | 今後の指導の重点                                                                                                                                                                  |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 数と式   | ○整式の加法と減法の計算の問題では、県平均に比べて1.9ポイント上回っている。<br>○目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する問題では、県平均に比べて2.5ポイント上回っている。<br>●平均正答率は全国平均より4.6ポイント下回っている。<br>●一元一次方程式をつくる問題では、県平均に比べて10.1ポイント下回っている。                 | ・1年生からの基礎・基本的な小テストを、今後も継続して繰り返し取り組ませることで、基礎・基本の定着を図る。<br>・方程式の立式に関して、3年生の2次方程式の問題を解かせる際に、連立方程式などの復習を加えて指導する。<br>・かがやきルーム指導員や習熟度別学習の教員と連携を図り、苦手意識のある生徒に対する支援を効果的にできるようにする。 |
| 図形    | ○扇形の中心角と弧の長さや面積との関係について理解している問題では、県平均を8.1ポイント上回っている。<br>○平行四辺形になるための条件を用いて、四角形が平行四辺形になることの理由を説明する問題では、県平均とほぼ同じ正答率となった。<br>●平均正答率は県平均より3.1ポイント下回っている。<br>●錯角が等しくなるための、2直線の位置関係を答える問題では、県平均より13.3ポイント下回っている。 | ・3年生で学習する「相似な図形」「円」の単元において、図形の用語、定義や定理、証明の書き方など、1、2年生の内容も踏まえて指導する。<br>・1年生の平面図形や空間図形の単元の復習を、継続して繰り返し取り組ませる。                                                               |
| 関数    | ○与えられた表やグラフから、必要な情報を適切に読み取る問題では、県平均に比べて1.1ポイント上回っている。<br>○事象を数学的に解釈し、問題解決の方法を数学的に説明する問題では、県平均とほぼ同じ正答率となった。<br>●グラフの意味を解釈する問題では、県平均より10.6ポイント下回っている。                                                        | ・3年生で「2乗に比例する関数」の学習の際に、比例・反比例、1次関数の既習事項の復習を繰り返し指導する。また、表・式・グラフを関連させた指導を行う。<br>・関数の定義について復習を行い、内容の定着を図る。                                                                   |
| 資料の活用 | ○ヒストグラムからある階級の度数を読み取る問題では、全国平均とほぼ同じ正答率となった。<br>●平均正答率は全国平均より2.0ポイント下回っている。<br>●相対度数の必要性和意味を理解しているかを問う問題では、栃木県平均より3.0ポイント下回っている。                                                                            | ・3年生で学習する標本調査の単元において、資料の整理と活用、確率など1、2年生の復習に取り組ませる指導を行う。<br>・資料を活用して問題解決していくような課題学習に取り組ませることで、正しい知識を用いて正しい判断ができるよう指導していく。                                                  |

## 宇都宮市立上河内中学校 第3学年 生徒質問紙

### ★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

○自己肯定感や「将来の夢や目標を持っていますか？」という問いでは、栃木県の平均は全国平均よりも高いが、本校はともに全国平均並みである。しかし、いじめはどんな場合であってもいけないことだと思う生徒の割合は、全国・栃木県の平均よりもさらに高い。このことから、本校の生徒は、いじめはよくないことであることや仲間を大切に意識が高いことがわかる。

○「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？」や「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか？」など教科の学習の意義を問う質問について、全国＜栃木県＜本校の順で高く、本校の生徒は半数以上の生徒が、学習することに意義を感じている特性が見られる。今後は、より高い目標に向かって努力することができるように、生徒に自信を持たせることが重要と考えられる。学習に自信を持たせ、さらに努力を継続することができるような好循環を生み出していくことが大切と考えられる。

●「携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか？」という問いに対しては、8割近くの生徒が肯定的な回答であり、6割程度の全国平均に比べて高い。しかし、1日のそれらの使用時間は、全国や栃木県の平均よりも使用時間が長く、本校の生徒の特長として、使用の約束は守っているが、1日の使用時間が長く、多くの生徒が1日2時間以上使用している実態が見られる。このことから、携帯電話やスマートフォン・コンピュータの1日当たりの使用時間を半減して、その時間を家庭学習に振り向ける必要があると考えられる。

●「家で自分で計画を立てて勉強していますか？」の質問では、「よくしている」、「ときどきしている」と答えた生徒の割合は、栃木県の結果よりも低く、全国とほぼ同じである。また、1日当たり2時間以上の家庭学習をしている生徒の割合も栃木県さらに全国よりも低い結果にとどまるなど、家庭学習にかけられる時間の少なさが浮き彫りになった。また、こうしたことから「新型コロナウイルスの感染拡大で多くの学校が休校していた期間中、計画的に学習を続けることができましたか？」という質問項目においても、どちらかといえば、当てはまらないと答えた生徒の割合が、栃木県よりも10パーセント以上高い結果となっていた点とつながると考えられる。今後も、学校で学習したことが確実に身に付くよう家庭学習の質や時間を増やすことで、自分の学力が向上するよう指導していく。また、生徒個々の家庭学習の状況や進路の希望に応じた助言を行うことが大切だと考えられる。

## 宇都宮市立上河内中学校（第3学年） 学力向上に向けた学校全体での取組

### ★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

| 重点的な取組                        | 取組の具体的な内容                                                             | 取組に関わる調査結果                                                                                                                                                                |
|-------------------------------|-----------------------------------------------------------------------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 確かな学力を身に付けさせるための授業展開や学習活動の工夫。 | 主体的で対話的な深い学び(アクティブラーニング)の実践に向け、思考力を深めるために、各教科で共通して「書く時間」を重視した授業を展開する。 | 「国語の授業では、目的に応じて、自分の考えが伝わるように根拠を明確にして書いたり表現を工夫して書いたりしていますか。」の質問に肯定的に回答した生徒の割合は69.9%で、全国の平均と比べて4.7ポイント、県の平均と比べると9.2%低い。また、「表現」に関わる問題の校内正答率において、国語の「書く能力」は全国の平均を2.3ポイント下回った。 |

### ★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

| 調査結果等に見られた課題                  | 重点的な取組  | 取組の具体的な内容                                                                                                               |
|-------------------------------|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 学校の授業時間以外に、ふだん、読書をしている生徒が少ない。 | 読書活動の充実 | ・教科や総合的な学習の時間の調べ学習などで、積極的に図書室を活用する。<br>・図書ボランティアや教職員によるブックトークや読み聞かせを継続して行う。<br>・図書だよりや多読者紹介等による読書啓発や、壁面掲示等での促進活動の充実を図る。 |